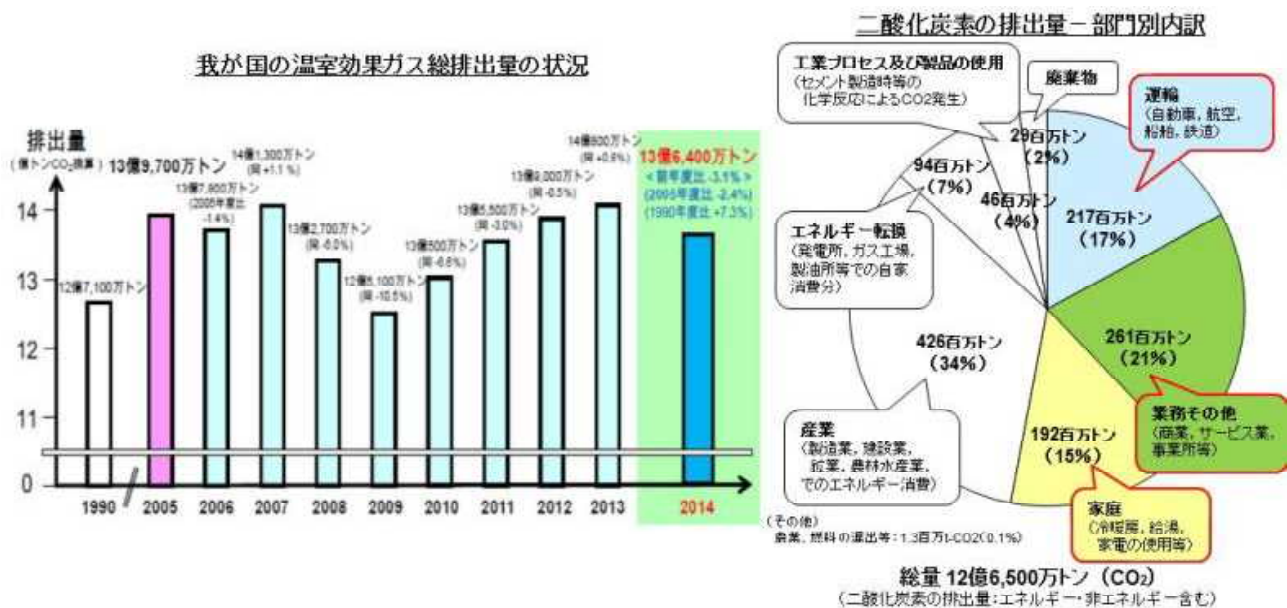


I. 地球温暖化をめぐる現状と九州の実態

1. 我が国における温室効果ガス排出量の現況

2014年度の我が国の温室効果ガス排出量は、13億6,400万トン（CO₂換算、前年度比-3.1%、2005年度比-2.4%）でした。）

我が国における温室効果ガス排出量の現況(2014年度)

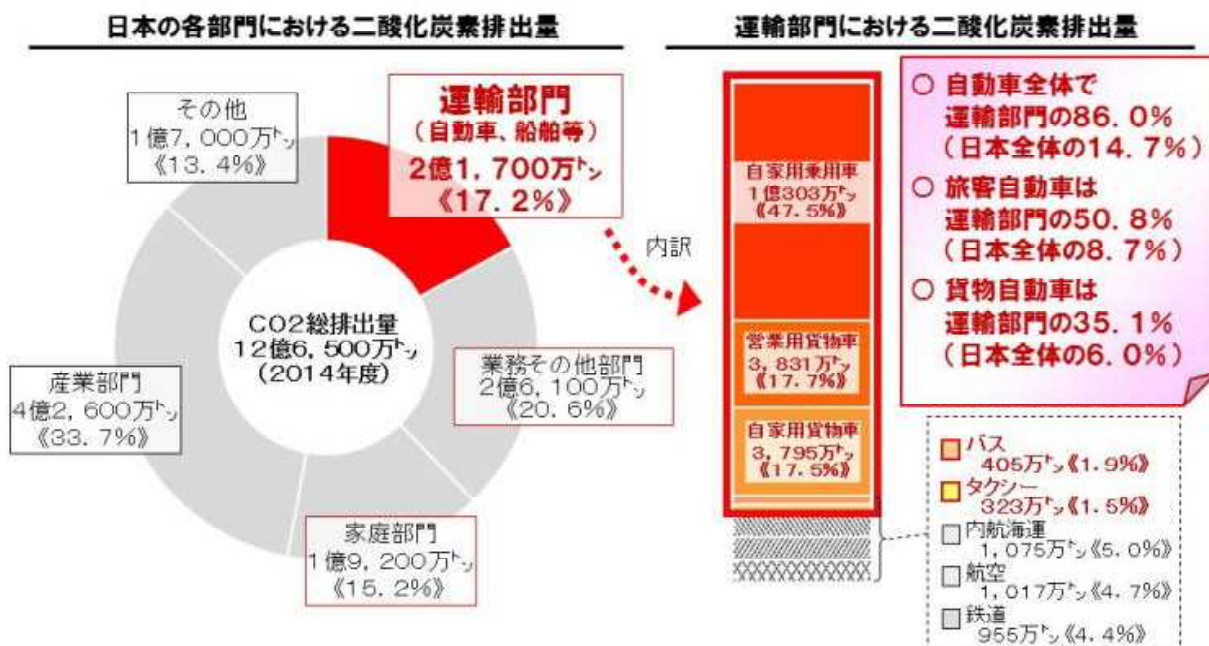


2. 運輸部門における二酸化炭素排出量

平成26年度における日本の二酸化炭素排出量のうち、運輸部門からの排出量は17.2%、自動車全体では運輸部門の86.0%（日本全体の14.7%）、貨物自動車に限ると運輸部門の35.1%（日本全体の6.0%）を占めています。

※温室効果ガスには、二酸化炭素、メタン、フロンガス等があり、二酸化炭素は温室効果ガスの中でも大気中に最も多く存在し、地球温暖化への影響が最も大きいとされています。

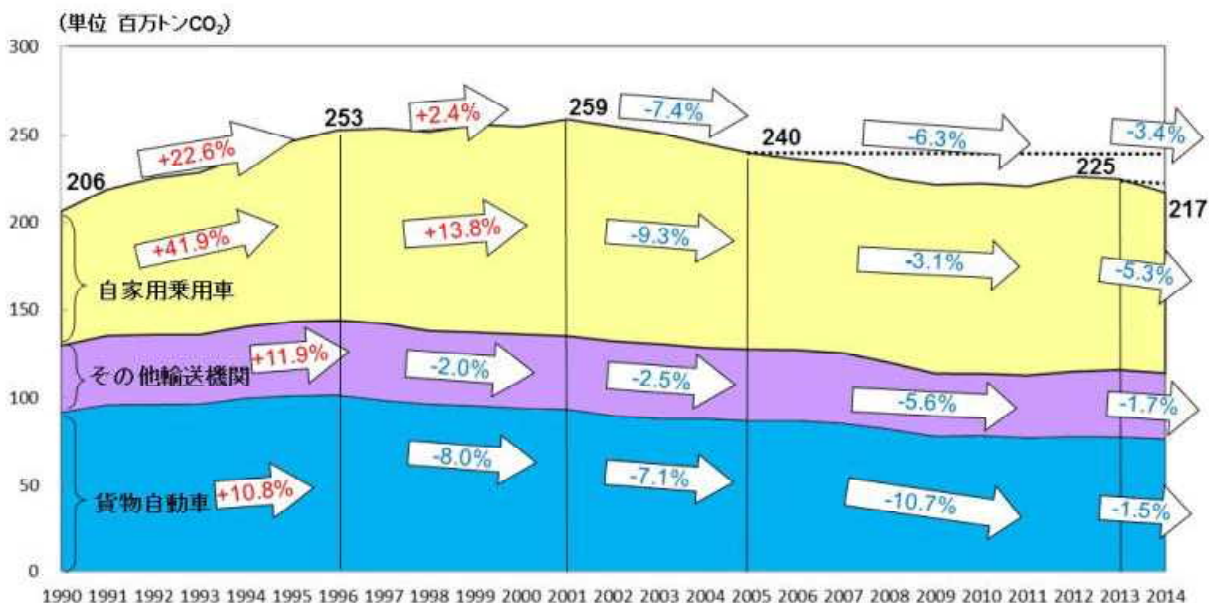
運輸部門における二酸化炭素排出量(内訳)



※ 電気事業者の発電の伴う排出量、熱供給事業者の熱発生に伴う排出量はそれぞれの消費量に応じて最終需要部門に配分
 ※ 端数処理の関係上、合計の数値が一致しない場合がある。
 ※ 温室効果ガスインベントリオフィス「日本の温室効果ガス排出量データ(1990~2014年度)確報値」より国土交通省環境政策課作成

1990年度から1996年度までの間に、運輸部門における二酸化炭素の排出量は22.6%増加しましたが、その後、1997年度から2001年度にかけてほぼ横ばいに転じ、2001年度以降は減少傾向を示しています。

運輸部門における二酸化炭素排出量の推移



その他輸送機関: バス、タクシー、鉄道、船舶、航空

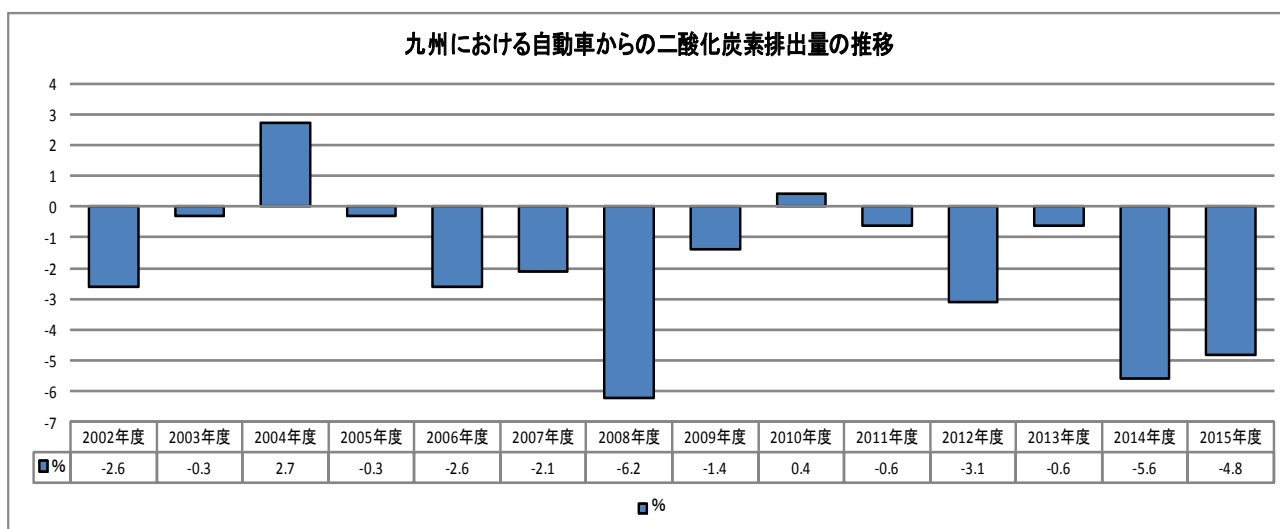
3. 九州地区の運輸部門における二酸化炭素排出量

九州地域7県の温室効果ガス総排出量は、基準年（1990年度）で約1億5253万トン（二酸化炭素換算）、最新年度（2000年～2005年）で約1億5247万トンであり、全国総排出量の12.1%～11.2%を占めています。

（資料：九州経済産業局 九州地域におけるエネルギー・温暖化対策活動ハンドブック）

また、九州地区における運輸部門の二酸化炭素排出量は、自動車から排出される二酸化炭素量を、ガソリン、軽油の販売量から推計した結果、平成27年度は、前年より4.8%減少しています。（出典：都道府県別石油製品販売総括速報）

平成2005年度以降は減少傾向にあります。今後とも着実に低公害車の普及等を推進することにより、エネルギー消費量の削減に取り組む必要があります。



2015年度のガソリン、軽油の販売量の対前年比

	九州	全国
ガソリン	96.1%	96.3%
軽油	93.7%	96.2%
合計	95.2%	96.3%